

- ◎日光にあてるなど適切な育苗管理を行い、移植に向けて苗を仕上げましょう。
- ◎例年以上に代かきは丁寧に（均平を意識）
- ◎適期移植&活着促進で本田生育スタートダッシュ！

高温アラート運用開始  
「あぐりん」で登録

### 1 育苗後半の管理

#### 温度

苗の生育とともに適正温度は下がっていきます。  
移植1週間前からは昼夜ハウスやトンネルを開放し、  
外気温に慣らしましょう。また、ムレ苗が発生しやすいステージ  
です。遮光資材の掛けっぱなし、床温の過度な低下は、根の活力を低下させ、ムレ苗発生を助長する  
ので避けましょう。

日中  
15~20℃

夜間  
8℃以上

硬化期(1.5葉~)以降の温度管理

#### 灌水

朝のうち(床温がまだ低い時間帯)にたっぷり水をかけましょう。床土が白く乾いたり、葉  
が巻き始めたら部分的に灌水しましょう。ただし午後3時以降は灌水を避けましょう。

#### 高密度播種(密苗、密播)では特に注意!

- ①苗が老化しやすいので、慣行育苗以上に高温を避ける。
- ②苗の蒸散量が多いので十分に灌水する。
- ③苗の生育が停滞する前に移植する(葉数は2.0葉、育苗期間は20日が目安)。

### 2 本当は重要な“代かき”

#### 目的

田面を平らにして、漏水を防ぎ、土壌を膨軟にして、移植作業を容易にします。

1回目の代かき(荒代かき)は砕土を目的に、2回目の代かきは均平や稲株などの埋没  
を目的に行います。

いずれも初期生育の確保、除草剤の効果安定に重要なことです。

#### 作業のポイント

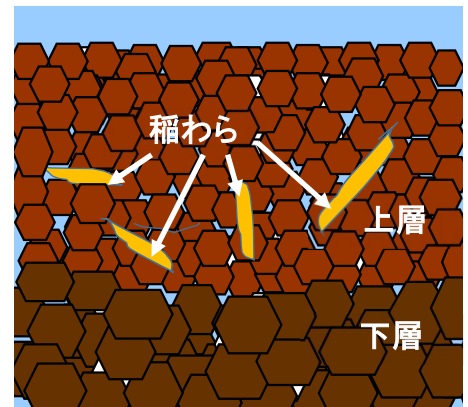
①代かき時の水量は土塊が9割程度見えるくらいです。水が多いと、圃場のがわ  
かりにくく均平作業がしにくくなるとともに、稲わら等のすき込み  
が難しくなります。昨年は“ひこばえ”が大きくワラの量が多いこ  
とから 例年以上に気をつけましょう。

②砂質土壌では代かきを丁寧にやって漏水を防ぎます。

③ただし、代かきを過剰(作土すべてが羊かん状)に行うと、土壌  
還元が強まり、活着や根張りが悪くなり、初期生育の確保が困難  
になります。

④田面は均平に、下層は耕起の土塊が残っているのが理想です。

⑤代かき時期は、移植2~3日前が理想です。土壌の性質に合わせた作業計画を立てましょう。



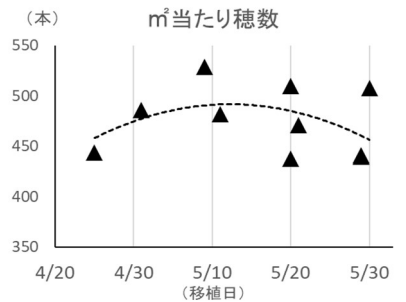
代かき後の土壌断面

### 3 移植で肝心なのはタイミング&植え方

#### タイミング

移植適期は5月10日～20日頃です。移植時期が遅れると穂数の確保が難しくなります(右図)。

移植は天候が温和な日に行いましょう。低温や強風の日の移植は、植え傷みのダメージが大きく、活着が遅くなります。



つや姫の移植時期と穂数の関係 (水田農業試験場 2007年～2009年)

山形県1か月予報 (仙台管区气象台 4/25 発表)

4/27～5/26の気温 **高い確率 70%**

特に期間の前半は、**かなり高くなる見込み**

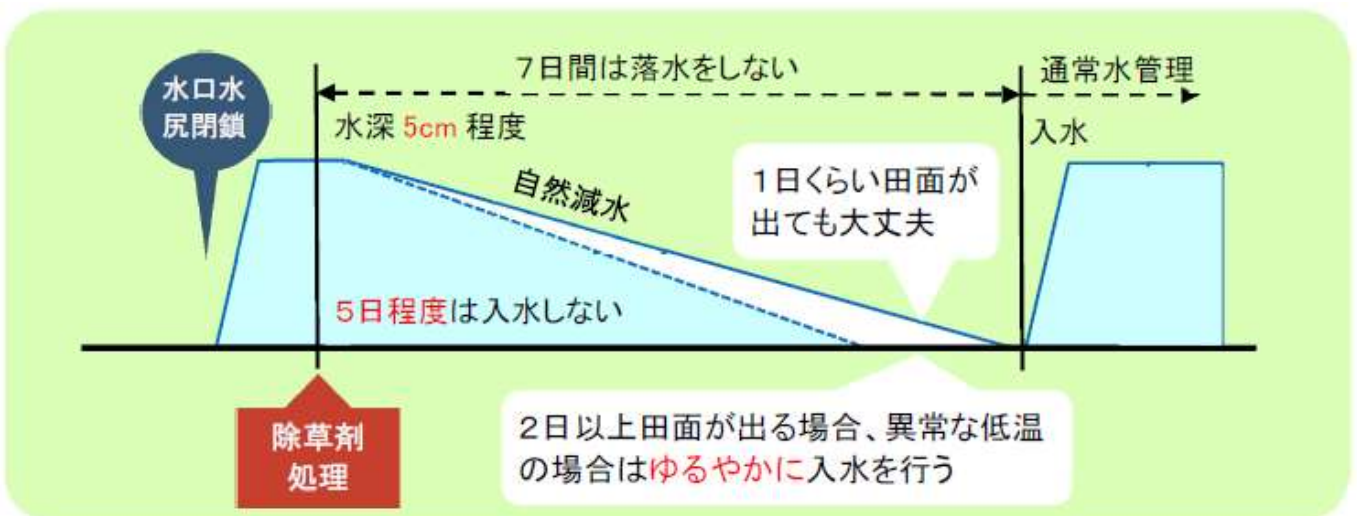
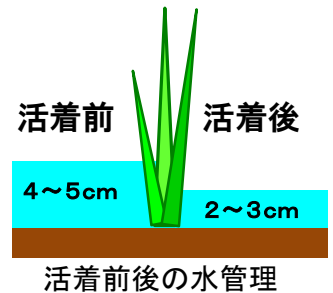
#### 植え方

栽植密度は坪当たり70株程度、植込本数は1株当たり4～5本(m<sup>2</sup>当たり植付本数100本前後)が基本です。極端な疎植は、天候不順の影響を受けやすく、茎数不足や精玄米粒数歩合低下等のリスクを高めます。植付け深は3cm程度とします。深植えにすると、生長点付近の温度が上がらず分げつ発生が抑制され、茎数が増えません。

特に苗の生育が不揃いな場合は、深植えにならないよう、より丁寧に植え付けましょう。

### 4 移植後はメリハリある水管理で初期生育促進

- ①活着するまでは水深4～5cmにして、苗を保護し、新根の発生を促します。
- ②活着したら(新葉が見えたら)、水深2～3cmの浅水管理に切り替え、分げつ発生を促します。強風や低温が続くときは、一時的に水深をやや深めにして稲体を保護しましょう。
- ③ワキ防止のため、一発処理除草剤を散布する前に一度、水交換または軽い田干しを行いましょう。
- ④一発処理除草剤を散布した後、7日間は止水し、落水・かけ流しは控えましょう。



**「スマートつや姫」を使ってみよう!** 詳しくは最寄りのJAまたは農業技術普及課へ

**春季農作業事故防止強化期間 4/1～6/10 実施中!**  
トラクター、田植え機フル稼働中です。忙しい時ほど慎重に